

たそがれ日記

山鹿 泰治

なぐりこみ

大正十二年六月、総同盟本所支部の錦糸堀の鉄道会社労組がスト破りをやった。この急報で自連は総同盟に制裁を加える要ありと決した。六月末のある夕方、集った五十余人は吾妻橋のビヤホールに入り、その日の行動のかげ引きは印刷工の桑原鍊州の合図に従うことにして、かれが右腕をあげるのを機に、一同無言で外に出て、二丁ほど先を右に曲り、左側の二階家に総同盟の看板が出ているのへ押かけた。先頭は布留川桂と山鹿だった。出て来た男と問答する間もどかしく、一同下足のままなだれこみ、電話をかけようとする男をつきとばし、受話器をもぎとると二階へドカドカとかけ上り、座っていた四、五人を打つ、ける、なぐる。「スト破り」、「裏切者」とどなりつつ、壁の掲示や帳簿をひきちぎり、「ずらかれ」という鍊州の合図に、電光石火の直接行動あざやかに、一瞬にして一人残らず消えうせた。いつもスト破りや二足わらじ（仕事場を二つ持つ労働者）の制裁

に適用する奥の手だった。総同盟は「器物破壊」で訴えたらしいが、犯人が一人も名前もわからず、警視庁はとりあげなかった。戦利品の電話受信器一個はヤマガ無電研究所が受納した。

ロシア大使館から

英文の手紙が自連に来て、機関紙が買いたいとのことだが、エイゴはわかっててもエイゴを使う義務はない。その日の相談で「われらはイギリス人じゃない」と返事すると、こんどは日本語で来たので、私と水沼熊さんとがロシア大使館へ行った。キカン紙を見せて「これがほしいのか」。「ダーダー一部いくらか」と来たので、「一部千円だ」というと、目の玉がとびだすほどに驚いて、「それはわからない。こんなものが千円とは」という。すべて熊さんの通訳だ。「労働者ならタダでもやるのだが、サマミろ」と冷笑して帰った。熊さんのロシア語は流暢だった。自連では一同留飲をさげた。

タナスト 四号 タナスト社理論誌 三〇〇円
神もなく主人もなく 四号 タナスト社情報紙 三〇〇円

野火

相田博君から

奴隸的心性（第24号所載）内の「マルクス主義が若い諸君に親近感をあたえるのは、権力と経済を国家に集中するだけで、封建的階層構造をそのまま温存するからである。」納得せず、説明を求める。といて来た。

相田君が納得できないのは、権力と経済を国家に集中して支配するという権力国家の階層制が封建的な制度を温存しているという僕の考え方をいうのではないかと思われる。階層構造をもつ政治制度は必ず官僚制の弊害を生ずることは常識だし、官僚制において上長に対する追従という封建的美徳が陰に陽に求められることは、日本ばかりでなく世界各国で認められていることだ。そしてこうした社会で育成された者が、権力構造、階層構造に別して疑問を持たずに、むしろそれが当然のように親近感さえもつのは有り得ることだと言える。だからこそ大學生の時でもリーダーの指令下にゲバもやり、カッコイイとも思ったのではないか。アナルシストであるためには、こうした社会構造に批判的であることが要求される。相田君の求める説明は、これではピンと合っていないのだろうか。

（三浦）

児玉優君から

アンケート、2、23号24号の論争の渦がともよい。

ただ誌面の関係上であろうが、発言があまりにも短縮されていて、もっと言及してほしいところがあったり、なぜそうなのかということがぬかれていたりして、発言者の発言が結論だけわかるのだが、その思想をつかむことができない。またその発言が皮層的になっているようなところも見うける。新しい号からは20ページになるとのこと、その点でそれを歓迎する。3、ページ数がふえるのだから、「結論」だけでなく、その結論までの筋道ものせることを希望したい。そうすると筆者の論理がよくつかめるし、考えるうえでの参考になる。4、やっていること、今まで某大学のべ平連で活動していたが、行動に対する発想というか、何か根本が欠けているというか、何かくいちがうところがあり、今は他のメンバーからはなれて、友人と学習会をしながら「思想」そのものについて、「行動」とは何かについて考えている。「デモがあるから行く」を否定し、「自分にとって今、何がしたいのか、また何をすべきか」ということを考えているわけ。「僕という一人の人間を軸として」社会を考えるという方法（これは是非はともかくとして）を一度徹底して見たいのです。ある程度、そういったことをしてか

ら、ふたたび「ベ平連」に、こんどはそれを変えるつもりで参加してみようと思っている。

西 譲君から

.....また誌上に掲載された「不倫」第4/2号に連絡をとりたので住所をお知らせ下さい。.....ぼくは出来れば長期的な展望に立ってヒッピー・コミューンを志向する彼等と一緒に画期的なコミューンを建設してみたいのです。彼等はその気さえあればですが.....。今年は「月刊キブツ」(一九七一年10・11月号)を読みました。この号にはアメリカ各地のコミューン群像が特集され、その限界や問題点、さらには有望な点など体験の裏付けの上で、こと細かに記録してあり、大変参考になりました。ぼくは昔クロボトキンや石川三四郎の翻訳をむさぼるように讀んだ経験があり、そうしたアナルシズムの原理理念をプラグマチックに、現実の生活に生かす生活改善の工夫を、今着実にコミューンのなかに求めて運営しようとしているのです。何々主義とも言わず、また主義を無理矢理にふりまわすことなく、原理理念を自分たちの実生活に生かしている人々こそ、僕は誠実であると思います。理念や原理を政治の次元から生活の次元に引きもどす生活改善こそ大切であり、ある特定の信条が現実の実

生活に生かされていないのであれば、この信条がいかに尊くついても無能で役立たずと言わざるを得ないと思います。コミューンによる生活改善運動こそ日本の新しい土着思想の実践であり、真のプラグマチズムであると思います。多くのコミューンの設計のイメージは脱管理社会に基づく伸びやかな知的野生の人間の養育です。.....

日本共同体協会

月刊キブツを出すと共にコム・ニコース・フロム・ジャパンという英文のものを出している。その第2号(十二月)には日本の各地にあるコミューンを紹介している。日本という国の伝統の中から生れた、いわば体臭粉々たるコミューンの姿を外国に知らせることは、やがてその泥臭さのままで世界中のコミューンが手をつなぐには、どのような「連合」の仕方をしたら良いかを考えさせるものとなるだろう。月刊キブツには西君の書いてあるアメリカのコミューン、イスラエルのコミューンなどの紹介ばかりでなく、日本の各コミューンの話し合いもすでに行っている。資本主義社会の中で、こうしたコミューンをつくることはそのこと自体が一つの革命運動に他ならない。権力によらない一つのモラルが形成されて、コミューンは永続的な構造になる。このモラルはその土地の色や臭を持つ

てはいても、世界中共通なものも同時に持つだろう。コミューンに権力ができるとき、上から押しつけられるモラルによって隷属と偶像崇拜的な構造ができる。

徐君兄弟を求む会(東京都新宿区戸塚町一ノ五二〇)

日本で生れ育った在日韓国人、徐勝君と弟徐俊植君が韓国で「北朝鮮スパイ」容疑で捕えられ、十月二十二日徐勝君は死刑、弟は十五年の刑を宣告された。徐勝君の母校東京教育大学、俊植君の母校京都西の京中学、桂高校の教師や同窓生が中心になって、兄弟の救済運動を行なって来た。徐君は人相不明なまでにクロイド化する原因不明の大火傷を受けているという。スパイというのは検察側のデッチ上げだと俊植君は言っており、教育大の諸君は公正な裁判を要求して韓国大使館を訪れたり、大統領宛の要望、嘆願を提出した。高等法院の第二審傍聴団派遣その他のためカンパを求めている。(振替東京一六六五二八番)

金井佳子さんは第三機動隊の佐々木和夫他二十数名に街頭で私刑された。五月に告訴しても、う三年になる。一向にラチはあかない。結果はどうであれ警察当局に対する戦は続けられている。二月二十七日か三月五日に皆の寄贈の本や雑誌のバザーをやって資金をつくることである。

イタリアから

政治的迫害犠牲者のためのアピール
「黒十字アナリスト」、青年アナリスト団体、イタリア・アナリスト連盟、政治法曹委員会の政治犠牲者のための全国委員会の集会が一九七二年一月九日曜日ローマにおいて開催された。

この会議は現在起訴されて投獄されている同志たちの防衛のため、既定の計画にしたがっての反弾圧デモ、を行なうために、友好的な発言を全国的な規模で調整するために召集されたものである。

金井佳子さんの機動隊員告訴を支援する会(東京杉並区天沼3・29・28和光荘6号仁木順三方、振替東京三〇九三五番、中山明)
一九六九年四月二十八日、沖繩デーのデモに参加した

各委員会の現在の経済事情を検討した上で、集った同志たちは、出来るだけ早く、知り得る限りのすべてのアナリスト、すべての活動体に、所要の資金を、国際的にアピールし、各団体が各地で募金をはじめるように、懇請することを決定した。

分散的になることを避け、各団体の正確な経済的管理のために、すべての応募金はイタリア、六〇〇一九、セニガリア (AN)、私書箱二〇、エウロ・スバドニ CN PVP 宛にされた。

同志諸君

右の文はイタリア語からのもので、一九七二年一月十五日のウマニタ・ノヴァ紙の第一号に出たイタリア・アナルシスト運動から出された国際的アピールである。

われわれは一九六九年十二月十二日の陰謀事件で起訴された無罪の同志たちの防衛を続けるために巨額の資金を集めねばならない。

公判開始は二月二十三日に定まっているが、その以前にわれわれは引き続き一連の重要な準備をしなければならぬ。数名の弁護士は地方から出て来てローマに滞在するのにかかる費用が、また彼等によりに必要とするすべての資料を集めて提供せねばならない。それにまた二月十九日にはローマにおいて、国際大衆法廷や大デモを同時に行なう。

ただわれわれは裁判されようとする同志たちを反動の手から奪い返すことができたなら、弾圧の波動を抑止し、復活せんとするファシズムを打倒することにも成功するだろう。

われわれは各活動体が、それぞれの可能なだけ資金募集にしが、左記に送ってくれるようお願いする。

COMITATO NAZIONALE PRO VITTIME
POLITICHE EURO SPADONI
Casella Postale 20, 60019
SENIGALLIA (AN), ITALIA

国際革命運動の理解と連帯を確信する。兄弟愛をしアナルシストのあいさつをおくる。

防衛委員会 A・バラトル

(十二月十二日の事件というのは多分「政治的陰謀」と「公共の場所における爆発物製造所持」でミラノにおいて十四名の労働者が捕えられた事であろう。この手紙はマルゾッキ君からの添え書きをつけて送られて来た。

国際労働者協会第十四回大会

一九七一年十月三日モンペリエにおいて開かれた第十四回大会は「革命的自治管理に関して」宣言を発表した。一八六四年の第一回インタナショナル以来、革命的サンジカリストやアナルコ・サンジカリストは常に断続的にではあったが AIT の旗を守って来た。主として今はスペインの亡命者、フランス、南米にその支持者を持っているに過ぎないが、数の多いことなく、真に革命

を目指す労働者の組合のインタナショナルであることを

念願している。AIT の旗は革命の旗である。その宣言「革命的自治管理に関して」は次の通りである。

「この言葉は人間関係の進行的進化から発生したものであり、自治管理は新しい概念ではない。昨日はスペインにおいて(一九三六—一九三九)《共同化と社会化》と呼ばれていたものである。

自治管理はアナルコ・サンジカリスムの原則の経済的基礎である。すなわち生産のための土地、工場、機械および器具を、生産者の陣営に属する者以外の他の者に管理させず、生産者の手中に、というのである。

自治管理はリベルテル社会革命の一面であり、これ以外のものとしては考えることはできない。

大会はマルクス主義者の様式で実現された見せかけの自治管理といった性格のものを否定する。それは国家または政党の少数者の監視の下に行なわれるものである。

同様に、大会はユーゴスラヴィアで実験したケースの如き、国家の中央集権的部課に従属する生産のある部門における部分的な実現といった性質のものも否定する。個人の完全な自由のない経済的自治管理は錯誤に過ぎない。生産に無縁の分子によって管理される自治管理は結局労働者を裏切る猿芝居に過ぎない。

自治管理はあらゆる政治的教導を拒否する。

自治管理は総体的で生産のあらゆる部門を包括しなければならぬ。このようにして、労働者の経済的組織の手中に、管理、調整、地方的・全国的・国際的構造化、リベルテル連帯の基礎による生産の分配と交換をおさめるのである」

マクリン裁判支援ニュース、第七号

第八回審理、二月十四日(月)。すなわち、法務省黒田事務官らをひきだして、黒い弾圧の入管行政を暴露、告発する機会が訪れた。マクリン氏の反戦のための思想と表現の自由・権利を守るために、入管法先取り、再上程を許さないために法廷を埋めつくし、法務省を圧倒しよう。マクリン氏の次回入管出頭目は二月二三日一〇時、カンバクラハイ。東京都練馬区大泉学園町二八五和田春樹方、マクリン裁判を支援する市民の会。

リベルテル合本

第1号から第24号まで萩原君の手許にあったものが合本された。20部位しかない。三浦の所にも少しあるが、そろえて製本に出す時間的余裕がないので、まだ先のことになる。定価二〇〇〇円(送料共)。(諸君の手持ち分に欠号がある場合の補充はまだ可能だから至急)。

『労働者の政治的能力』について

近頃、三浦精一さんの訳で前記P・Jブルードンの著書がでた。今度の翻訳は石川さんの訳に比べ相当読みやすくなっている。マクシムルロワの序が出色だ。一般にブルードンの著作は読み通すのがむづかしい。大冊なものと内容によるのだがこれは著者の知識が神学哲学、社会学経済学と多岐に亘っているのと、先ず何よりも当時のフランス社会の激動の歴史に密着しているからである。ブルードンはフランスの民衆・労働者の革命が生涯の主眼であった。▲議會の仲介によって社会的解放を考える者と、職業的手段によってしか社会的解放を考えない者との間で彼ブルードンは後者の思想的根拠、よって立つ理論の創始者であった。今日でもフランスの労働者が運動で強力なのは、マルクス派よりブルードン派のお蔭である。僕の推定ではフランス人はマルクス主義に吸収されるには余りに個性的である。彼の著書を理解するには広く精密な脚註が必要だ。彼は自分がヘーゲルとストラウスの弟子だ」と告白しているが、講壇哲学者のように理論整然と自説を主張しない。むしろ事実をあげその因果関係を究め過去の事例にあたり未来を予測する。実証的であると同時に論理的で時には宇宙論的に神秘さえある。思うにこれが多様な民衆の思考の地平であり、そ

のいづれかを抽象化したり捨象したのが大方のインテリのやり方である。彼は決して高踏的ではない。民衆によって理解されるのを求めているだけだ。バルザックは自己の作品について言ったことがある。▲私は思想のために物語を変え、それはあっても物語のために思想を変えたことはない。ブルードンも同じだ。現実がどれ程暴力的になって強要しようとも彼は自己の思想のイオタだって変えはしない。彼の哲学は世界を説明しない、変革するのだ。

(莫空人)

編集後記

☆ 二月十七日に、クロンシュタットの記念集会を三十名ほどで開いた。半ば予想していたことだが、その内実において、集会は失敗だったと言わざるを得ない。その集会から何も生み出されなかったという点においては、十月の大杉等の集会と同じことだったけれど、クロンシュタットの反逆の精神を再確認するというには、あまりにも我々の精神が弛み切っていたのではないだろうか。今が必要とされているのは、一歩でもいいから前進し続けるということなのに、十月から前進どころか、後退していたのが実情なのだ。(眞・S)

☆ アナーキズム運動年表 萩原晋太郎著 二五〇円 千三三五円

☆ アナルコ・サンジカリズム 萩原晋太郎著 二五〇円 千五五五円

☆ 社会主義の下での人間の魂 一八〇円 千三三五円

オスカ・ワイルド著 はしもと・よしはる訳

☆ 政治の正義 一 財産編 四〇〇円 千四五五円

ウィリアム・ゴッドウィン著 はしもと・よしはる訳

☆ 科学から自由へ O・マーティン著 遠藤訳 一五〇円 千四五五円

☆ 風雪を越えて 山口健助著 一五〇円 千三三五円

☆ 日本無政府主義運動史 才一編 黒戦社版 三五〇円 千五五五円

☆ 強権主義の解剖 武良二著 二〇〇円 千三三五円

☆ 「大地」誌に発表された幸徳事件

はしもと・よしはる訳 二〇〇円 千四五五円

☆ 無政府主義者はこう答える 岩佐作太郎著 一五〇円 千三三五円

☆ 獄窓から 和田久太郎著 近藤憲二編 八〇〇円 千八五五円

☆ 死刑囚の思い出 増補決定版 古田大次郎著 七〇〇円 千六五五円

☆ 無政府共産主義、人類解放への道 八太舟三著 七〇〇円 千六五五円

☆ AHAパンブ・君高校生? 読んでみないか 一八〇円 千四五五円

☆ 無政府主義組織論・無政府主義とサンジカリズム

エンリコ・マラテスタ著 復刻版 一〇〇円 千三三五円

☆ 階級闘争説の誤謬 八太舟三著 一三〇円 千三三五円

☆ フランス人よ共和主義者になりたければ更に努力を

マルキ・ド・サド著 はしもと・よしはる訳

二五〇円 千四五五円

リベテール 一部 1000円

Le Libertaire 毎月一回15日発行

昭和47年2月15日発行 Vo. III No 3

編集兼発行者 三 浦 精 一

発行所 東京都練馬区大泉学園町2190

萩原晋太郎方

リベテールの会

(振替東京133830番 三浦精一)